健康管理を止めないで！

新型コロナウイルス VS ワクチン

1 若い世代へ迅速にワクチン接種を

デルタ株によるコロナ第5波が猛威を振るい、各県で過去最多の感染者数が報告されています。しかしながら感染者数に対して、重症者数や死亡者数は比較的少なく、それはまさに高齢者や高リスク者を先行しワクチン接種を行った効果と考えます。今後は若い世代へ迅速なワクチン接種が望まれます。

2 日本人が接種しているmRNAワクチン（ファイザー製／モデルナ製）とウイルスベクターワクチン（アストラゼネカ製）とは

これらのワクチンは最先端のゲノムテクノロジー（遺伝子技術）を使用して作られたワクチンです。従来の弱毒化や不活化した病原体を使用した不活化ワクチンとは異なり、病原体の遺伝情報（RNA／DNA／ウイルスベクターワクチン）を用いて免疫細胞を活性化し抗体を作らせるものです。短期間にワクチンの大量の生産が可能で、不活化ワクチンに比べ変異型にも効果が認められています（2回接種にて）。図1

3 ワクチン接種後の感染は10、000人に3人

ワクチン接種を先行接種した医療従事者（110万1698人）の調査では、接種後の感染者は281人で約0・03%でした。また感染者の約6割が1回目の接種後2週間以内でした。いずれの感染者にも死亡や重症化は認められませんでした。図2 図3

図1

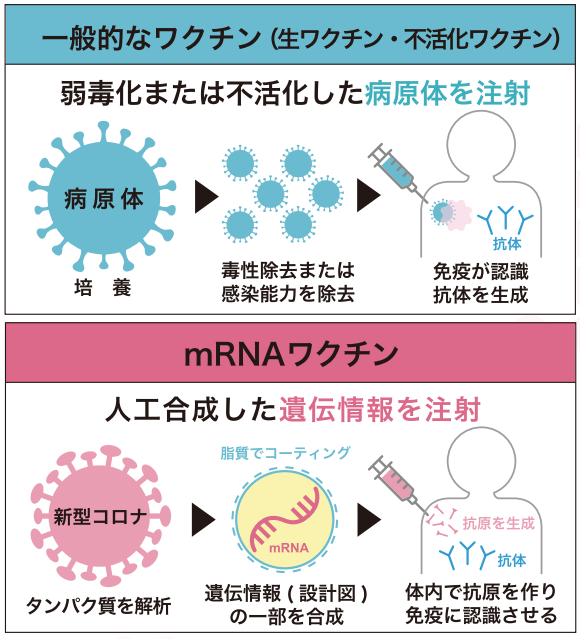


図2 ワクチン接種後の感染率

ワクチン接種者	110万1698人
ワクチン接種後の感染者	281人（0.03%）

（国立感染症研究所　医療従事者110万1698人のデータより）

図3 ワクチン接種後の効果　14日以降減少

接種後の日数	0日～13日	14日～20日	21日～27日	28日以降
発症率	64%	15%	12%	9%

（国立感染症研究所　医療従事者110万1698人のデータより）

図4 7種類の変異ウイルスと有効率の比較表

	従来型	イギリス型	ブラジル型	南アフリカ型	インド型 デルタ株	カリフォルニア型	ニューヨーク型	由来不明
1回接種	57%	18%	16%	21%	37%	39%	55%	34%
2回接種	98%	94%	94%	90%	97%	97%	98%	97%

（横浜市立大学 研究グループの発表より）

4 ワクチン2回接種で変異ウイルスに90%以上有効

変異を続ける新型コロナウイルスにもワクチン2回接種で90%以上の効果を認めています。図4

5 ワクチン接種後の抗体価(抗体の量)を知ることが重要 さらに3回目接種を検討

ワクチン接種後に作られる抗体は、新型コロナウイルスに結合してヒトの細胞への侵入を防ぎ、感染や重症化を防ぎます。

しかしながら、この抗体は時間経過と共に減って行くことがわかってきました。

現在、3回目のワクチン接種(ブースト接種)が検討されています。

この抗体価(抗体の量)を知ることが、コロナ禍の社会生活において大きく安心につながります。

＊当院では人間ドック受診時にて抗体価検査を行うことができます。

6 ワクチンパスポートと抗体価検査で経済活動再開を

ワクチン2回接種で感染や重症化が9割以上も抑制されることから、経済活動の活性化のためにワクチンパスポートの発行が検討されています。しかし一方で2回接種後でも感染した方もおり、原因としては抗体価(抗体量)の低下が考えられています。抗体価は経時的に減少し、特に高齢者と喫煙者が顕著に減少することが報告されています。そのため抗体価を定期的に検査することが、安心安全な経済活動に肝要なことと考えます。

＊ワクチンパスポートとはワクチン2回接種済みを証明するもので、コロナ禍の生活の制限を軽減することを目的にしたものです。

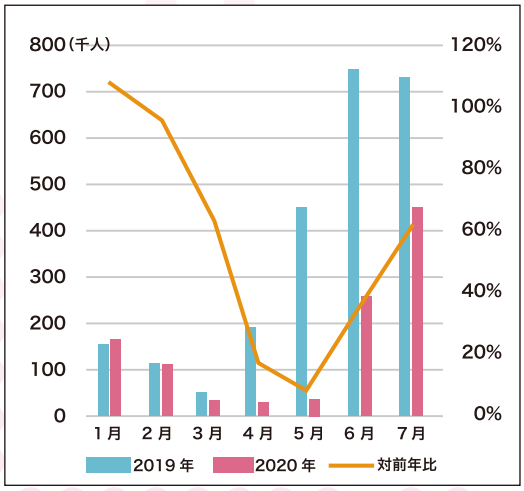
7 いそがれるコロナ治療薬の使用許可 自宅療養者に有効な初期治療を

東京都のコロナ自宅療養者は2万人を超えました。現在、自宅療養者に対しての治療は解熱剤(カロナールやロキソニンなど)の対症療法しか行えませんが、近々、様々な治療薬が診療所(クリニック)レベルにも解禁(開放)され、自宅療養者に、早期から有効な治療が行えるようになります。新型コロナウイルスに対して人工的に作られた2つの抗体を組み合わせる「抗体カクテル療法」は期待される治療薬の1つです。

8 コロナ禍でがん検診3割減 10、000人以上のがんが未発見か

日本対がん協会は、コロナ禍により今年のがん検診受診者数は激減し、10、000人以上のがんが発見されない恐れがあると報告し、がん検診を呼びかけています。図5

図5 がん検診受診者数と対前年比



(日本対がん協会の調査より)

9 健康管理を止めないで

定期的に行っていた人間ドック(検診)を控えることで早期治療の機会を逃す恐れにつながります。肺小細胞がんのように短期間で進行するがんもあります。早期発見・早期治療で良くなったはずのがんが、進行がんで手遅れになることもあります。昨年受診を控えた方は、今年は受診を検討して欲しいと願っています。どうか健康管理を止めないで下さい。今やがんは完治できる病気です。そのためには早期発見、早期治療が重要です。

人生を健康な体で楽しく過ごすために、コロナ禍でも健康管理を止めないで下さい。

文責 人間ドック課 課長 湊 景子